

万博「パナソニックパビリオン」訪問

5月13日(火)、開催中の大阪・関西万博のパナソニックグループパビリオン「ノモノの国」を訪問しました。

企業と連携し、本校の訪問教育部の児童が最新技術のアバターロボットを操作、未来を体感しました。そのライブ配信を全国の支援学校の児童生徒が、ZOOMやメタバース空間を通じて視聴参加しました。



☆日時：5月13日(火) 13:30～14:30

1か月前から開催されている大阪・関西万博について、遠い存在の感覚しか持てていなかった現地に赴けない児童生徒たち。

事前学習を積み重ね、関心・興味が徐々に高まってきた頃、ついに万博訪問の日を迎えました。

本校校長の挨拶が始まり、パナソニックグループパビリオン総合プロデューサーから「完成までに3年間」という長い年月がかかった話を聞き、そんなに長くかかったのか…と児童生徒たちが驚いていました。

現場にいる教員が、パビリオンの外観を映し出すと、カラフルな布が風にはためき、きれいと言葉が聞かれました。



教員の説明とともにパビリオンに入ると、光の導きから物語が始まりました。

数ある結晶の中から一つを選び台の上に置くと、キラーンと光の輪が広がったり、うちわであおぐと一つ一つ違った音が聞こえてきたりしました。



あおぎ続けると、結晶から蝶が羽ばたき始めました。結晶をあおぐ教員に「もっともっと」「がんばれ」と応援する声が自然に発せられました。大きく羽を羽ばたかせて結晶から飛び立つ瞬間では、「お～」との歓声と拍手がわきあがりました。

途中に入るクイズも、真剣に悩みながら考えて、発表していました。

う～ん…

1かな？2かな？



「大地」のコーナーでは、訪問教育部の児童が代表でアバターロボットを動かしました。
視聴参加している児童生徒の関心がある場所を想像しながら、右や上へと見たい方向
にゆっくり操作しました。



もう少し右がいいな♪
緑の木をみんなは見たいん
じゃないかな。
映そう♪



まるで、自分がパビリオンにいるような感覚を体験し、大阪・関西万博のわくわく感に
触れることができました。

授業の振り返りでは、生き生きした顔で「楽しかった」と発表する児童生徒がほとんど
で、他にはどんなパビリオンがあるのか調べたいと、学習への意欲を示していました。